

# 本山町の連携教育（保・小・中高）の取組について

本山町教育委員会

## Q1 今、なぜ、保・小・中高の連携を進めるのですか？

現在は、急激な社会情勢の変化に伴い、子どもたちを取り巻く教育環境が大きく変化し、6・3・3制という従来の形で教育を考えることにも課題が生じており、乳幼児期を含めた新たな枠組みで、学校教育を捉え直す時期に来ていると思います。

すでに本山町では、土佐町とともに嶺北高校と6年間を通じた中高一貫教育を展開し、地域の特色に立脚した教育を推進してきているところです。

また、平成19年度からは同居連携型中高一貫教育校として中学校組合立嶺北中学校をスタートさせ、23年度からは本山町立嶺北中学校として、その内容の充実を図ってきているところです。

町立の中学校が誕生したこの機会を捉え、中高一貫教育を核に保・小・中高が連携した教育活動を積極的に展開することによって、「0歳から18歳までは地元でそしてふるさとへ」という系統性・連続性のある本山町の特色を生かした教育を創造していくこととしました。そして、18年間を通して子どもたちの確かな学力や健やかな身体そして豊かな心を育むとともに、地域の歴史や文化を深く理解し、ふるさとの明日を担う人材に育ててほしいと考えています。

## Q2 どのようなことを目指しているのですか？

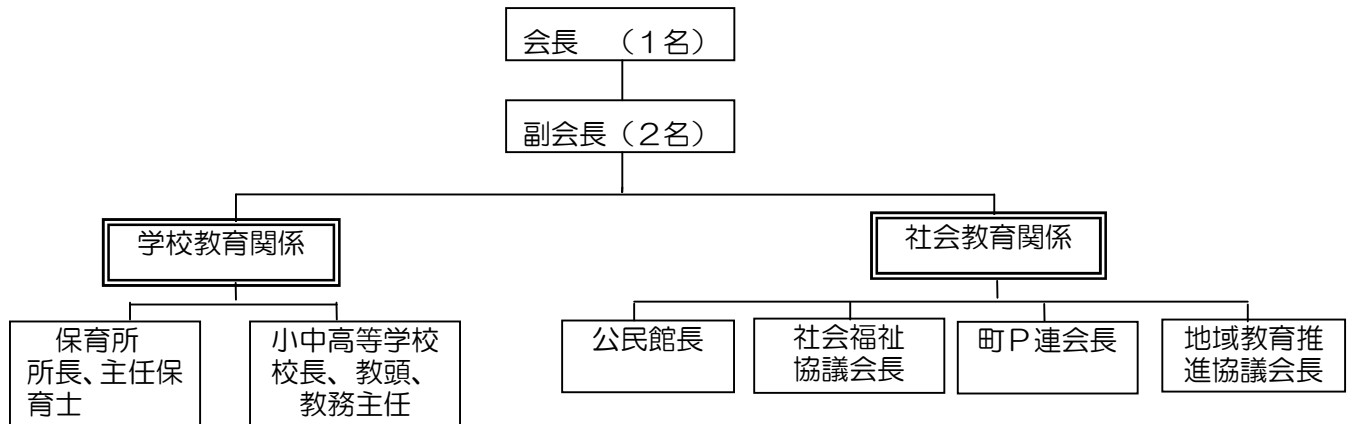
これまで各学校、保育所が連携して取り組んできた教育の成果を生かすとともに、今後、保・小・中高がより緊密に連携しあい、本山町の子どもたちを育てるため、次のことに重点的に取り組みます。

- (1) 乳幼児・児童・生徒が交流することを通して健やかな身体や豊かな人間性を身に付ける。
- (2) 本山町の歴史、産業や文化等を理解し、地域との関わりを深め、乳幼児期からふるさとを愛する心を養う。
- (3) 家庭や地域との連携を基盤にして、継続的な子ども理解を図る。
- (4) 乳幼児・児童・生徒の発達段階や個々の特性等を十分考慮した指導・支援を行い、確かな学力の向上を図る。
- (5) 授業研究や交流授業等を通して教員が保・小・中高の異なった学校文化に触れ、相互の意思疎通と意識変革を図る。

### Q3 推進体制はどうなっていますか？

平成24年度の4月からスタートする「本山町連携教育推進協議会」が母体になります。連携教育に係る各事業が円滑に実施でき、目標が達成できるよう、企画、調整、評価を行います。年度当初及び年度末の2回の会議を開催します。構成員は次のようになっています。

#### 〈連携教育推進協議会〉



### Q4 どのような行事や活動を行っていくのですか？

これまで各学校、保育所で行ってきた行事や活動について、連携という視点で再確認を行い、内容の充実を図ります。なお、内容については次の四つに整理できると考えています。

- 地域理解に関すること・・・米作り、力又一体験、間伐体験・木工作品づくり など
- 健やかな体の育成に関すること・・・ 早ね早おき朝ごはんの取り組み など
- 豊かな心・社会性の育成に関すること・・・異年齢交流活動、紙芝居 など
- 確かな学力の定着に関すること・・・授業交流、授業研究 など

### Q5 保育所や学校は、どのように関わっていくのですか？

推進協議会での企画、調整、評価に基づき、保育所、各学校では、連携という視点にたった教育活動を展開していきます。そして、教職員一人一人が、「0歳から18歳までは地元で そしてふるさとへ」という教育理念への理解を深め、本山町の実態に即した連携教育を推進していきたいと考えています。

### Q6 評価はどのように行うのですか。

連携教育推進協議会で検証し、次年度の活動実施に生かします。